

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 全国公民科・社会科教育研究会

(代表者 山本 勇 会員数 約1,000人)

T E L 03-3737-1331

1 前文

第1問、第4問も含めて全体的に本試よりも思考判断系が多く、昨年度に比べて良問も多かった。知識問題、読解問題、思考力を問う問題のバランスが良い構成である。このような形式が今後続いていくとよいのではないか。公共の授業の進め方についても改めて考えさせられる面もあった。

以下、具体的に各問について意見と評価を申し述べる。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等への評価

第1問、第4問については、「公共、政治・経済」の評価と共通のものとする。

第2問

問1 難民について知識系の問題。会話文中の三つの空欄補充の組合せでそれぞれが2択というパターンである。アについては容易に解答できるが、ロヒンギャや第三国定住は公共としてはやや細かいか。ウは細かいが一般常識・国語力で解けなくもない。難民問題に関する重要語句の理解と言いつつ、正答でない選択肢があまりにも分かりやすい。シリア・ロヒンギャという時事問題絡みになっているのは良いと考える。

問2 南北問題など発展途上国への援助に関する事例当てはめ問題。Xはとにかく助ける、Yは先進国の責任(危害)、Zは自国中心。公共の学習において、現代の哲学を応用して思考を広げる授業展開の工夫を示唆している。学問的にも一定の蓄積がある代表的な人物の文章を読み比べることで、解決策に根拠をもたせており非常に工夫されている良問である。

問3 ODAに関する統計資料から国名を特定する問題。会話文と表を照らして解答する形式である。読解しながらポイントを学べるという点では良問か。ア・イはこの2国、ウ・エはこの2国と規定されているため、会話を読みながら無理なく解答できる。最後のオも平易に分かる。単純な資料読み取りと読解力問題である。6行目からエがアメリカ、9行目からイが日本、10行目からウがイギリス、一応、次ページ4行目からアがフランス。オは前行からとなる。

問4 外国人の人権に関する会話文の空欄を埋める問題。ほぼ知識問題である。選挙権と請願権の行使に国籍がいるか否かを問うことになっている。選挙権は国民固有で外国人に選挙権はないと知っていても請願権についてはあやふやな受験者も多いだろう。知識という点では細かい問題ではあるが、昨今の社会情勢を考えると指導しておきたい内容ではある。

第3問

問1 過去に出題例がある計算ではなく、考え方をじっくり思考させる機会費用に関する出題である。よく読まないといけない一方、機会費用を理解している生徒には平易なのではないか。アは知識(消去法)、イは「あきらめることになった最大の利益」に注目したい。公共での学びを問われる出題。アは明らかに違う内容で、もはや問題にしなくてもよいのではないか。イを問うだけでも価値のある問題ではないだろうか。

問2 外部不経済に関する会話文の空欄を埋める問題。具体例を提示したうえで、影響やメカニズムについて問うていく形式である。単純な知識ではなく、ある程度それを活用して思考する問題

となっている。知識を具体的事例に落とし込む問題であり、これも良問ではないだろうか。丁寧に学習に取り組んでいた受験者は正答できたのではないか。公共での出題としてはふさわしい形式である。外部不経済が発生した時のコストと、内部化について問われている。知識問題というよりはよく読まないといけない問題。アは前行の「何らかの対策が必要」から読み取れる、イは「政府が」から読み取ってほしい。

問3 企業の社会的責任（CSR）とフィランソロピーに関する問題。アは単純な知識問題で、イは文脈から読み取れるのではないか。2択で誤答肢があまりにも分かりやすいため、迷わず正解できるだろう。誤答肢にメセナの説明などを入れる等、アの難易度がもう少し高いと、知識と読み取りのバランスが良くなり、難易度も上がるのではないか。

問4 地方公共団体のサービスを題材とした出題。レポート文中の一部に下線があり、その正誤を組み合わせる問題であり、意外と細かい正誤問題となっている。公平性と効率性を具体例にしつかり落とし込みたい。丁寧に読み解いていくことが重要。ア、イは文脈から明らかに読解でき、ウはトレードオフという言葉を知っていれば、平易で知識問題である。経済の学習の基本的な内容の部分に該当する。

3 総評・まとめ

全体として、本試験よりも知識問題、読解問題、思考力を問う問題のバランスが良い構成となっており、第3問の問1のように知識を活用し、思考力等も用いながら解く問題が出題されている点は評価できる。他方、資料の活用による問題は必要ではあるが、読解力が前面に出すぎるような問題は今後、検討していく必要があるものとする。

4 今後の共通テストへの要望

第2問でシリア・ロヒンギャという時事問題（問1）を扱ったり、外国人の人権を扱う（問4）など、高校生に関心を持ってほしい事項を扱ったり、問2で公共の授業の在り方を示したり、今回の追試験の問題では作題者の意図が明確であり、その点は現場としても評価できる点である。

一方で、本試験でも申し述べたが、特に「公共（単独問題）」においては、今後も「公共」の特色を生かした出題形式や内容を期待したい。第2問の問2のように大項目Aで身に付けた見方・考え方を活用して探究する場面及び問題とすることで、公共で学習する知識だけでなく、そこで得た知識をどう活用するかという観点にまで踏み込んで共通テスト対策が行えるようになると良い循環となる。